

様式第6号（第18条関係）

宮崎市地域コミュニティ活動交付金実績報告書

令和7年5月19日

宮崎市長 清山 知憲 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市大字田吉5730-3
名 称	赤江地域まちづくり推進委員会
代表者の氏名	会長 佐藤 正信
電 話 番 号	(0985) 51-5122

令和6年6月14日付けで交付決定のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金については、宮崎市地域コミュニティ活動交付金に関する規則第18条第1項の規定により、関係書類を添えて実績報告書を提出します。

添付書類

1. 事業実施報告・収支決算書
2. 事業別収支計算書
3. 積立金管理状況報告書
4. 宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書
5. 赤江地域まちづくり推進委員会備品管理台帳写し
6. 赤江地域自治区地域協議会意見書

令和6年度 事業実施報告・収支決算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

1 統括

今年度は、4つの新規事業を含む16の事業を計画してすべての事業を何とか開催することができた。しかしながら、「わくわく防災体験事業」だけは、地域内の竜巻災害を考慮して急遽中止となり、後日に規模を縮小して開催したため予算執行率が約24%となった。

また、まちづくり事業のイベントには地域住民はもちろんのこと、地域内の小中高に通う多くの児童や学生の方々にも参加協力をいただいたり、自治会連合会など各種団体とも連携し活動することができた。

2 収支決算

(1) 収入の部

(単位：円)

項 目	予算	決算	差	備 考
基礎交付金	4,361,444	4,361,444	0	
繰越金	713,556	713,556	0	
負担金	30,000	27,000	-3,000	ソーラーカー、花いっぱい事業の参加費▲6人分
雑収入	0	6,895	6,895	自己資金口座の解約を含む預金利息
合 計	5,105,000	5,108,895	3,895	

(2) 支出の部

(単位：円)

分野	事 業 名	実施年数	予算	決算	差	備 考
防	青パト活動支援及び防犯活動事業	15年目	180,000	138,368	41,632	
防	安全に関する訓練及び講座事業	13年目	110,000	38,171	71,829	業務用扇風機のリース代金未使用
防	災害救助資機材等設置事業	12年目	220,000	210,912	9,088	
防	わくわく防災体験事業	1年目	480,000	113,317	366,683	9/1竜巻災害の為中止、2月に講座のみ実施
福	つくってあそぼ事業	1年目	150,000	34,580	115,420	募集案内を広報誌で行い効率化、材料代等の節約
環	ソーラーカーを作ろう！事業	1年目	130,000	46,647	83,353	ソーラーカーを無償で提供していただいた
環	あかえ花いっぱい事業	3年目	125,000	81,508	43,492	募集案内を広報誌で行い効率化、材料代等の節約
文	あかえ寺子屋事業	10年目	230,000	177,023	52,977	募集案内を広報誌で行い効率化
文	赤江の歴史案内事業	9年目	300,000	262,140	37,860	
他	花でつなごう西田橋事業	2年目	250,000	150,889	99,111	
他	広報誌「人・夢・あかえ」の発行事業	16年目	690,000	591,574	98,426	広報誌43号のページ数を減らした
他	カレンダーを作ろう事業	7年目	270,000	232,932	37,068	
他	地域掲示板設置事業	7年目	20,000	13,434	6,566	
他	熱気球から地域を眺めよう事業	4年目	530,000	498,256	31,744	
他	まつり実行委員会事業	1年目	40,000	29,298	10,702	
他	まちづくり活動支援事業	15年目	1,380,000	1,345,634	34,366	
合 計			5,105,000	3,964,683	1,140,317	

収入合計	支出合計	繰越金
5,108,895	3,964,683	1,144,212

3.実施報告

〔1〕防犯・防災に係る事業

ア

事業名	青パト活動支援及び防犯活動事業	実施年数	15年目									
事業期間	開始：平成23年度	終了：年度										
地域魅力発信 プランとの関連	①安心して暮らせるまちに沿った事業である。											
目的 (期待される効果)	①青パト活動の支援事業と隊員の募集活動を行う。 ②地域安全確保のための地域防犯活動を実施。											
事業内容・手段	・今年度は、前年度より登録隊員が2名増えて、隊員32名で巡回回数302回、活動参加総数595名の活動実績となった。使用車両は9台。 ・現在活動中のあかえ青パト隊の燃料費（9月・3月の年2回）、ボランティア保険料の補助などの活動支援。											
事業費	138,368円											
対象者	赤江地域住民											
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>登録隊員数</td><td>32人</td><td>30人</td></tr><tr><td>巡回回数</td><td>302回</td><td>268回</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	令和5年度	登録隊員数	32人	30人	巡回回数	302回	268回
年 度	令和6年度	令和5年度										
登録隊員数	32人	30人										
巡回回数	302回	268回										
住民の声 (アンケートの結果等)	アンケートは行っていない。 ・日中、夜間と二班に分かれ活動されており、犯罪に対する抑止に寄与した。											

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	① 地域ニーズの把握	A	A	青パトのパトロール活動は防犯の抑止になっているので地域のニーズはある。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	青パト隊によるパトロール活動。	
	②住民の参加	A	A	地域住民・地域内の病院関係者が青パト隊として活動している。		事業の効果	⑥課題解決への作用	B	A	隊員の募集を常に意識して勧誘を行った。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域住民の安全な生活に寄与している。			⑦住民の満足度	A	A	地域の犯罪抑止につながっているのので、見守り活動は有効である。	
	④各種団体との連携	A	A	青少協との連携あり。		事業継続の必要性				有	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・青パト隊結成時の隊員が高齢化で脱退されるなか、2名の増員となった。 ・隊員間で不審者情報などを共有してパトロールを行った。 ・赤江地域での大きな事件・事故の発生はなかった。									
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（ 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未 ・ 済	
		<地域協議会からの意見（ 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。
 その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

イ

事業名	安全に関する訓練及び講座事業	実施年数	13年目												
事業期間	開始：平成24年度	終了：													
地域魅力発信 プランとの関連	①安心して暮らせるまち、②災害に強い安心のまちに沿った事業である。														
目的 (期待される効果)	防災に関する知識を学び、防災意識を向上させる。 災害時や事故などが起こった時も適切に対処できるような訓練・講座を行う。														
事業内容・手段	<救命講座：救命入門コース/AEDの使用を含む心肺蘇生法と応急手当> 開催日：8月3日（土） 開催場所：宮崎市消防局 南消防署 参加者 23名＋スタッフ・事務局 8名 合計 31名 協力：宮崎市消防局 南消防署														
事業費	38,171円														
対象者	赤江地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>38人</td><td>43人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>8人</td><td>14人</td></tr><tr><td>合計</td><td>46人</td><td>57人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	38人	43人	スタッフ	8人	14人	合計	46人	57人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	38人	43人													
スタッフ	8人	14人													
合計	46人	57人													
住民の声 (アンケートの 結果等)	<救命講座> ・本日はいい講座でした。たくさんの知識を得ることができました。 ・赤江まちづくり推進委員会は、いろいろなイベントがあり、いつも参加したいと思っています。救命講座は、毎回参加したいと思っています。 ・毎年行われているとの事、来年もぜひ参加させていただきます。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	① 地域ニーズの把握	A	A	救命講座は、定期的に受ける必要があるため毎年行ってほしいとの声がある。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	広報誌の自治会個別配布で実施した。また、チラシを地域内の高校に配布し告知した。
	② 住民の参加	A	A	土曜日の開催とした。幅広い世代に参加して頂けた。			⑥課題解決への作用	A	A	安全・安心なまちづくりを推進するためには必要なツールである。
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	毎年多くの応募があり、継続して取り組む必要性を感じている。			⑦住民の満足度	A	A	参加者アンケートの満足度は高かった。
	③ 各種団体との連携	A	A	自治会 老人クラブ 宮崎農業高校 宮崎南高校 鵬翔高校		事業継続の必要性				有
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 令和5年度の参加者アンケートで応急手当の知識を身に付けたいという回答があったので、今までのAEDの使用を含む心肺蘇生法に応急手当の処置方法をプラスして90分から120分の講座とした。多くの質問等があり有意義な講座になった。								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（ 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未・済
		<地域協議会からの意見（ 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未・済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

ウ

事業名	災害救助資機材等設置事業		実施年数	12年目																								
事業期間	開始：平成25年度		終了：																									
地域魅力発信 プランとの関連	①安心して暮らせるまち、②災害に強い安心のまちに沿った事業である。																											
目的 (期待される効果)	①地域内に設置している防災資機材等の備品管理、点検、補充。 ②学校に設置してある資機材について地域住民にも知ってもらうための広報。																											
事業内容・手段	・11/24(土)赤江小学校に設置してある資機材の点検を実施。使用期限切れ備品1点を交換補充した。また、赤江小PTA主催の「赤江っ子フェスタ」に協賛して資機材、備蓄品の説明を行った。 ・12/22(日)赤江東中学校に設置してある資機材の点検を実施。使用期限切れ備品3点を交換補充した。また、赤江東地区青少協主催の「炊出し訓練」に協賛して資機材を使用した訓練を行なった。 ・1/15(水)恒久小、宮崎南小に設置してある資機材の点検を実施。使用期限切れ備品1点を交換補充した。 ・2/16(日)赤江中学校に設置してある資機材の点検を実施。使用期限切れ備品3点を交換補充した。また、赤江地区青少協主催の「炊出し訓練」に協賛して資機材を使用した訓練を行なった。																											
事業費	210,912円																											
対象者	赤江地域住民																											
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>21人</td><td>14人</td></tr><tr><td>学校職員</td><td>8人</td><td>21人</td></tr><tr><td>宮崎市職員</td><td>3人</td><td>3人</td></tr><tr><td>PTA</td><td>3人</td><td>0人</td></tr><tr><td>青少協</td><td>18人</td><td>0人</td></tr><tr><td>児童・生徒</td><td>112人</td><td>0人</td></tr><tr><td>合計</td><td>165人</td><td>38人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ				年 度	令和6年度	令和5年度	スタッフ	21人	14人	学校職員	8人	21人	宮崎市職員	3人	3人	PTA	3人	0人	青少協	18人	0人	児童・生徒	112人	0人	合計	165人	38人
年 度	令和6年度	令和5年度																										
スタッフ	21人	14人																										
学校職員	8人	21人																										
宮崎市職員	3人	3人																										
PTA	3人	0人																										
青少協	18人	0人																										
児童・生徒	112人	0人																										
合計	165人	38人																										
民の声 (アンケートの 結果等)	アンケートは行っていない。																											

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	① 地域ニーズの把握	A	A	非常時に備えた配置。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	広報誌 資機材パンフレットをリニューアルして地域内の小中学校の生徒全員に配布した。	
	②住民の参加	A	A	PTA、青少協と連携を図り地域内の小中学校の生徒が多く参加した。			⑥課題解決への作用	A	A	海が近い為、津波に対する災害には有効。地震にも対応。	
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	海が近い地域なので、非常時には有効な資機材がある。			⑦住民の満足度	A	A	自治会・学校などから好評を得ている。	
	④各種団体との連携	A	A	学校・赤江地域センター・自治会・PTA・青少協		事業継続の必要性		有			
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 今年度も、宮崎市職員、各学校職員も同行することで、備品管理の情報共有ができ、大変良かった。恒久・赤江・宮崎南小 PTA や赤江・赤江東地区青少年育成協議会との連携を行い、保管している救助資機材や避難時の災害救助資機材・備蓄品の展示や使用体験を実施できた。									
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（ 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未 ・ 済	
		<地域協議会からの意見（ 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

エ

事業名	わくわく防災体験事業	実施年数	1年目								
事業期間	開始：令和6年度	終了：									
地域魅力発信プランとの関連	①安心して暮らせるまち、②災害に強い安心のまちに沿った事業である。										
目的 (期待される効果)	災害に備えた防災体験イベントを開催して、地域内住民の防災意識の向上を図る。										
事業内容・手段	地域内の住民・学校、開催場所近隣の自治会やその他の団体などと連携して、災害時を想定した講義や体験学習を実施する。 開催日時：令和6年9月1日(日)10:00～12:00 令和6年度は、赤江東地区交流センターの施設を使用して実施する ①地震、津波に関する講義受講（募集人数：120名） ②防災時の食に関する体験及び知識を学ぶ（募集人数：40名） ③児童を対象とした防災知識の体験学習（募集人数：40名） ④災害時の火災を想定した消火体験（募集人数：40名） ※上記の計画でしたが、8月末に発生した竜巻被害を考慮して急遽中止にした。 代替イベントとして「災害に備えるための講座」を下記の内容で実施した。 開催日時：令和7年2月8日（土）10:00～11:00 開催場所：赤江地域センター2階会議室 内容：地域防災コーディネーター/年森文泰氏の防災対策講座										
事業費	113,317円										
対象者	赤江地域住民										
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>47人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>8人</td></tr><tr><td>合計</td><td>55人</td></tr></table> ●年代別参加者：20代以下13名、20～50代12名、60代以上22名			年 度	令和6年度	一般参加者	47人	スタッフ	8人	合計	55人
年 度	令和6年度										
一般参加者	47人										
スタッフ	8人										
合計	55人										
住民の声 (アンケートの結果等)	<災害に備えるための講座> ・避難経路をもう一度確認したい。 ・災害に関して、もう少し具体的に訓練等で体験してみたい。 ・宮崎は色々な災害が発生するので、具体的な対策を知ることが出来て良かったです。帰りに家具の固定グッズと飛散防止フィルムと消火器を買い足そうと思いました。 ・講座に参加して改めて日頃の備えを見直そうと思いました。 ・ペットとの非難を考えるイベントを開催してほしい。										

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	① 地域ニーズの把握	A		防災に関する危機意識が高く、知識学習と体験学習のニーズがある。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	参加募集のチラシを自治会班回覧と地域内の高校に配布して周知を行った。	
	② 住民の参加	A	A	土曜日の開催とした。幅広い世代に参加して頂けた。			⑥課題解決への作用	A	A	災害に強い安心のまちづくりを推進するためには必要なツールである。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	赤江地域は、津波災害などが起こりやすいので、防災意識の維持向上に努める必要がある			⑦住民の満足度	A	A	参加者アンケートの満足度は高かった。	
	③ 各種団体との連携	A	A	自治会 小中学校・高校 赤江地域センター		事業継続の必要性				有	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 当初計画していた体験型の防災イベントは、地域内の竜巻災害を考慮して急遽中止にした。しかしながら、災害に対する防災意識は高まっていると考え、災害に備えるための講座を実施した。参加者アンケートでもニーズがあることがわかった。来年度こそ、体験型の防災イベントを開催して地域住民のニーズに応えたい。									
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（ 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未 ・ 済	
		<地域協議会からの意見（ 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

〔2〕 地域福祉に係る事業

ア

事業名	つくってあそぼ事業	実施年数	1年目								
事業期間	開始：令和6年度	終了： 年度									
地域魅力発信プランとの関連	各魅力発信プラン全プランを網羅した事業である。										
目的 (期待される効果)	赤江地域に住む子供たちと一緒に遊びを作り楽しむ交流の場を作る。 また、中高生ボランティアにも協力を要請し、地域住民・学生との交流も兼ねる。										
事業内容・手段	西原児童センター、恒久児童館、赤江東地区交流センターの3箇所遊び道具と一緒に作り楽しむ。 ① 4月20日（土）西原児童センター 参加者：36名+スタッフ7名 ② 7月27日（土）恒久児童館 参加者：11名+スタッフ6名 ③ 8月24日（土）赤江東地区交流センター 参加者：22名+スタッフ8名  ・ 西原児童センター ・ 恒久児童館 ・ 赤江東地区交流センター										
事業費	34,580円										
対象者	赤江地域住民（小学生）										
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>69人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>21人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>90人</td></tr></table>			年 度	令和6年度	一般参加者	69人	スタッフ	21人	合 計	90人
年 度	令和6年度										
一般参加者	69人										
スタッフ	21人										
合 計	90人										
住民の声（アンケートの結果等）	・参加者のアンケートでは、多くの子供が面白かったと書いており、昔の遊びや「つくって」の遊びなどを楽しんでいた。										

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	－		事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	－	広報誌に掲載して、自治会の班回覧や配布による周知を実施した。
	②住民の参加	A	－	ボランティアで宮崎大学の研修生の参加があった。			⑥課題解決への作用	－	－	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	－				⑦住民の満足度	A	－	
	④各種団体との連携	A	－	赤江地域の児童館・児童センターと連携した。		事業継続の必要性				有
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ 児童センターや児童館の協力で集客が出来ました。								
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（ 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞							対応	未・済
		＜地域協議会からの意見（ 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞							対応	未・済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

〔3〕環境に係る事業

ア

事業名	ソーラーカーを作ろう! 事業		実施年数	1 年目								
事業期間	開始： 令和 6 年度		終了： 年度									
地域魅力発信 プランとの関連	自然エネルギー、環境問題、リサイクル、ゴミ分別、削減について学ぶ事業であり、各魅力発信プランに沿った事業で関連性がある。											
目 的 (期待される効果)	環境問題・再生可能エネルギーについて専門家から説明を受けた後、太陽光で走るソーラーカーを自分で作ることで自然界のエネルギーを学ぶ。											
事業内容・手段	ソーラーカーを作ろう! 事業 ・開 催 日： 令和 6 年 8 月 3 日（土） ・集合場所： 赤江地域センター 2F ・講 師： ひむかおひさまネットワーク 下津芳博 先生他 3 名											
事業費	4 6, 6 4 7 円											
対 象 者	赤江地域内小学生											
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和 6 年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>2 6 人 (男 16 人・女 10 人)</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>7 人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>3 3 人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ				年 度	令和 6 年度	一般参加者	2 6 人 (男 16 人・女 10 人)	スタッフ	7 人	合 計	3 3 人
年 度	令和 6 年度											
一般参加者	2 6 人 (男 16 人・女 10 人)											
スタッフ	7 人											
合 計	3 3 人											
住民の声（アンケートの結果等）	・エコ工作ができて勉強になった。 ・自然エネルギーからエコカーが動くのが楽しかった。 ・ゴミになってしまう物でソーラーカーが作れてすごい発想でした。 ・地球環境を利用し動力につなげることを他でもやってみたい。 ・次はペットボトルロケットを作りたい。 ・いろいろな発電の仕方を実験してみたい。 ・次はソーラーのラジコンを作りたい。											

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	① 地域ニーズの把握	A	—	募集定員(小学生)より若干下回ったが、親子での参加も多く盛況に開催できた。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	B	—	広報誌での募集をしたが、事前のチラシ配布も必要と感じた。	
	② 住民の参加	A	—	赤江地域内小学生の参加で、保護者も一緒に参加していただいた。			⑥課題解決への作用	A	—	廃棄物を利用し、自然エネルギーを活用する取組みは、物の大切さ、限りある資源活用を学ぶことができた。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	—	小学生の時から環境に関する事に興味を持たせる良い機会になった。			⑦住民の満足度	A	—	自然環境とエネルギー活用を学べ、参加者のアンケート結果は満足度が高かった。	
	④各種団体との連携	A	—	NPO 法人ひむかおひさまネットワークとの連携で開催できた。		事業継続の必要性				有	
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・当初の参加者募集を、広報誌のみとしていたが、チラシ等の配布も必要と思った。 ・保護者参加も多く、熱心に手伝う姿も微笑ましく盛況に開催できた。 ・環境に関する現状もわかりやすく説明され、小学生も理解ができた。									
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（ 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞							対応	未・済	
		＜地域協議会からの意見（ 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞							対応	未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

〔3〕環境に係る事業

イ

事業名	あかえ花いっぱい 事業	実施年数	3年目								
事業期間	開始： 平成31年度	終了： 年度									
地域魅力発信 プランとの関連	・魅力発信プランの5つの柱にないが、地域の環境美化についての事業も大切であることから実施した。										
目的 (期待される効果)	多肉植物の寄せ植えを作り、花のある暮らし、花を育てる楽しさを家庭から地域へ広げるとともに、明るい、心豊かなまちづくりを目指す。										
事業内容・手段	あかえ花いっぱい事業 『多肉植物寄せ植え教室』 ・開催日： 令和6年9月28日(土) ・集合場所： 赤江地域センター 2階 ・講師： NPO 法人オープンガーデンサンフラワー 新名れい子氏										
事業費	81,508円										
対象者	赤江地域住民										
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>28人(男4人・女24人)</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>7人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>35人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	一般参加者	28人(男4人・女24人)	スタッフ	7人	合 計	35人
年 度	令和6年度										
一般参加者	28人(男4人・女24人)										
スタッフ	7人										
合 計	35人										
住民の声(アンケートの結果等)	・多肉植物の種類に多さにビックリした。 ・今後も街の緑を増やすようなイベント開催をお願いしたい。 ・寄せ植え教室は楽しかった。毎年開催してほしいです。 ・多肉植物の水やりのコツや管理の仕方など教えていただき良かった。 ・多肉植物の名前が分かれば更に良かった。 ※ 初回参加・2回目の参加者 ～ 25/28人(89.2%) 年代別参加で 50代・60代の参加者 ～ 18/28人(64.2%) 参加者の評価(大変良かった・良かった) ～ 27/28人(96.4%)										

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	① 地域ニーズの把握	A	B	募集定員近くの応募があり家族での参加があった。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	広報誌を自治会全戸数への配布ができたことによりにより、多くの方に周知する事ができたと思う。
	② 住民の参加	A	A	赤江地区内参加者とお友達の声掛けで地区外参加者もあった。			⑥課題解決への作用	B	B	多肉植物の種類・花の名前等の説明がなく、事前の打合せが足りなかった。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	花を通じて環境美化につながる機会を与えた。			⑦住民の満足度	A	A	大変よかった・良かったの評価が96.2%と高く満足度が得られた事業であった。
	④各種団体との連携	A	A	NPO 法人オープンガーデンサンフラワーの代表の方を講師に招いた。		事業継続の必要性				有
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ 今回、広報誌のみ募集告知を掲載したが、定員程の参加者となった。また、下は10代から上は70代と幅広い年齢層の方の参加で交流ができ、作品披露など、目的が達成できたと思う。								
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（ 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞							対応	未・済
		＜地域協議会からの意見（ 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞							対応	未・済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

〔6〕 伝統文化に係る事業

ア

事業名	あかえ寺子屋事業	実施年数	10年目												
事業期間	開始：平成27年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	⑤伝統文化が光るまちに沿った事業である。														
目的 (期待される効果)	広い世代に歴史や伝統文化を学んでもらう。 地域の方の交流も楽しんでもらえる場を作る。														
事業内容・手段	(1) まち歩き 古道を歩く 場 所：曾井城跡・護東寺跡・伊満福寺 実施時期：5月25日（土） 内 容：赤江の史跡を回って、住んでいる地区の歴史を紹介 (2) 音楽と茶の湯 ～五感で楽しむソプラノの響きと茶の湯～ 会 場：宝泉寺 実施時期：11月9日（土） 内 容：ソプラノと「呈茶」とお茶の講話  														
事業費	177,023円														
対象者	赤江地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>(1) 27人 (2) 51人</td><td>(1) 27人 (2) 52人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>(1) 9人 (2) 19人</td><td>(1) 8人 (2) 15人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>(1) 36人 (2) 70人</td><td>(1) 35人 (2) 67人</td></tr></table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	(1) 27人 (2) 51人	(1) 27人 (2) 52人	スタッフ	(1) 9人 (2) 19人	(1) 8人 (2) 15人	合 計	(1) 36人 (2) 70人	(1) 35人 (2) 67人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	(1) 27人 (2) 51人	(1) 27人 (2) 52人													
スタッフ	(1) 9人 (2) 19人	(1) 8人 (2) 15人													
合 計	(1) 36人 (2) 70人	(1) 35人 (2) 67人													
住民の声 (アンケートの 結果等)	<まち歩き 古道を歩く>～地元赤江の史跡を訪ねて歴史を知る～> ・城ヶ崎に住んでいますが、今回城ヶ崎の謂れである城が分って良かった。 ・長年地元に住みながら初めて知り、訪ねた場所が3箇所ありました。 ・専門家の先生から説明を受け楽しかったです。勉強と運動になった。 <音楽と茶の湯 五感で楽しむソプラノの響きと茶の湯> ・子供を連れての参加でしたが、お茶を頂いたり生で音楽を聴く機会はあまりありませんので、今回経験できて、非常に良かったです。 ・音楽を聴き、お茶を楽しみ、お話を聞き大変優雅な時間が過ごせた。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	地元に住みながら地元の史跡・歴史を知りたい方への発信。 音楽とお茶の協演で文化の鑑賞ができた。	事業の効果	⑤事業の周知	A	A	広報誌に複数の事業を同時に掲載して参加を募った。自治会の全戸数配付、学校配布により可能となり、多くの方に申し込みいただいた。		
	②住民の参加	A	A	まち歩きでは参加者の半数が初めての地域住民。 音楽と茶の湯は毎回参加される方が多い。		⑥課題解決への作用	A	A	日本の伝統文化を堪能し、地域のことを知る機会となった。		
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	毎年多くの応募があり、継続して取り組む必要性を感じている。		⑦住民の満足度	A	A	アンケートによると、主に高い評価が得られた。 次年度以降も継続していきたい。		
	④各種団体との連携	A	A	地元の方に講師になっていただき地域の歴史を聞く機会になった。お寺や公民館をお借りした。		事業継続の必要性			有		
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ アンケートを見るとこの事業を楽しみにしている地域住民が多く、回を重ね地域に定着してきた事業であることを実感する。昨年はお茶の話が好評でしたので、今回は「お茶の講話」としてプログラムに取り入れお茶の歴史などの話で喜んでもらえた。									
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞							対応	未 ・ 済	
		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞							対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。
 その際、「対応」の欄が『⓪』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『ⓧ』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

〔6〕 伝統文化に係る事業

イ

事業名	赤江の歴史案内事業		実施年数	9年目									
事業期間	開始：平成28年度		終了：										
地域魅力発信プランとの関連	⑤伝統文化が光るまちに沿った事業である。												
目的 (期待される効果)	赤江の昔の街並みや暮らし、歴史を学ぶ。 地域に残る歴史や文化を次世代へ継承する。												
事業内容・手段	赤江の歴史案内事業へ名称を変更して6年目、過去8か所への歴史案内板設置した。 江戸時代から栄えていた大淀界限には城ヶ崎、赤江の2つの港があり港に出入りする船当を取り締まる番所がありました。今年度は、その番所があった番所橋のたもとに案内板を設置しました。 〈設置場所〉番所橋 ・管理者等協議 												
事業費	262,140円												
対象者	赤江地域住民を中心とする市民												
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>5人</td><td>8人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>5人</td><td>8人</td></tr></table>				年 度	令和6年度	令和5年度	スタッフ	5人	8人	合 計	5人	8人
年 度	令和6年度	令和5年度											
スタッフ	5人	8人											
合 計	5人	8人											
住民の声 (アンケートの結果等)	・アンケートは行っていない。												



◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	史跡の歴史的背景を掲示し、誰にでも見やすくわかりやすい案内板を設置し地域の魅力を発信した。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	B	B	広報誌 44 号に掲載。 令和 7 年 3 月発行。	
	②住民の参加	－	－				⑥課題解決への作用	A	A	関係者が把握していなかった資料を発掘し本事業に生かすことができた。地域の歴史再発見といえる。	
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	－	－	歴史や背景等がわからなかった史跡に関して、本事業をきっかけに資料を発掘できたことはまち推の成果。				⑦住民の満足度	－	－	
	④各種団体との連携	A	A	国交省宮崎河川事務所や史跡管理団体や県文書センター、連携して資料を収集しまとめていった。		事業継続の必要性				有	
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞									
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞							対応	未 ・ 済	
		＜意見への対応＞									
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞							対応	未 ・ 済	
		＜意見への対応＞									

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。

その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

〔8〕その他の事業

ア

事業名	花でつなごう西田橋事業	実施年数	2年目												
事業期間	開始：令和5年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	各魅力発信プラン全プランを網羅した事業である。														
目的 (期待される効果)	事業を地域自治会や他団体・学校に協力を呼びかけながら実施する事で、地域の方とつながりを持ち、まちづくり活動に興味を持っていただく。														
事業内容・手段	今年度は近隣自治会や中学・高校に協力要請をし、西田橋花壇への植栽・管理（花壇の草取り、水やり等）を年間通して行う事で、地域住民・学生との交流を深めた。 「花でつなごう西田橋」 ・1回目植栽日程：令和6年5月26日（日） 管 理 日：6月 8日（土）、22日（土） 7月13日（土）、27日（土） 8月10日（土）、24日（土） 9月14日（土）、28日（土） 計8回 ・2回目植栽日程：令和6年12月14日（土） 管 理 日：令和7年1月11日（土）、2月8日（土）、 3月7日（土） 計3回														
事業費	150,889円														
対象者	赤江地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>389人</td><td>217人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>73人</td><td>71人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>462人</td><td>288人</td></tr></table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	389人	217人	スタッフ	73人	71人	合 計	462人	288人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	389人	217人													
スタッフ	73人	71人													
合 計	462人	288人													
住民の声（アンケートの結果等）	・行事に参加することで、地域住民の方や学生の皆さんと交流を図ることが出来た。初対面の方ともお話しが出来て楽しかった。 ・植栽や草取り、水やりを全員で行うことで、皆さんとの繋がりを深めることが出来た。また、西田橋が花一杯できれいになり、うれしい気持ちになった。 ・自分たちで花を育てることの楽しさを知るとともに、有意義な時間を過ごすことが出来た。今後もぜひ参加したい。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	地域内の美化につながった。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	チラシを作成して、自治会の班回覧、中学校P戸数への配布による周知を実施した。
	②住民の参加	A	A	たくさんのボランティアが参加した。近所の方が積極的に参加されました。			⑥課題解決への作用	A	A	
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A				⑦住民の満足度	A	A	植栽だけではなく、水やり等の管理にも多くの参加があった。
	④核種団体との連携	A	A	・青少年育成協議会 ・赤江、赤江東中学校		事業継続の必要性				有
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 中学校・高校に申込書と申込BOXを設置し、また青少協と協力してボランティア手帳を作成した結果、学生の参加が増加しました。 第30回宮崎市花のまちづくりコンクールにおいて団体活動部門の審査委員奨励賞を受賞したことも大きな励みになりました。								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（ 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未・済
		<地域協議会からの意見（ 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未・済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

〔8〕その他の事業

イ

事業名	広報誌「人・夢・あかえ」の発行事業		実施年数	16年目									
事業期間	開始：平成21年度		終了：年度										
地域魅力発信プランとの関連	各魅力発信プランに沿った事業を広く知っていただくということで、とても関連がある。												
目的 (期待される効果)	赤江地域まちづくり推進委員会の事業内容や活動をより多くの人に発信する。												
事業内容・手段	・ 広報誌の発行（年3回） R6.6月発行…令和5年度事業計画・事業予算、古民家調査事業報告 子ども食堂紹介【A4版 8ページ 10,000部】 R6.9月発行…事業のお知らせ、各事業参加募集案内、各部会事業報告 【A3版 2ページ 10,000部】 R7.3月発行…各部会事業報告、案内等 【A3版 2ページ 10,000部】												
事業費	591,574円												
対象者	赤江地域住民												
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>7人</td><td>7人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>7人</td><td>7人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ				年 度	令和6年度	令和5年度	スタッフ	7人	7人	合 計	7人	7人
年 度	令和6年度	令和5年度											
スタッフ	7人	7人											
合 計	7人	7人											
住民の声 (アンケートの結果等)	・ アンケートは行っていない。												

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	①地域 ニーズ の把握	A	A	各事業への募集を 広報誌に掲載し、 意見を随時ヒアリ ングし、ニーズの 把握に努めている。	広報	⑤事業の 周知	A	A	広報誌は自治会班回 覧、学校 PTA、公民 館、児童館等で配布 している。SNS 等も 併用している。	
	②住民の 参加	A	A	各種イベントを告 知し、参加者募集 に努めている。	事業の 効果	⑥課題解 決への 作用	A	A	事業案内参加者募集 を広報誌掲載だけ ではなく、チラシ作成 配布に努めた。	
効果的・ 効率的な 取組み	③地域ま ちづくり 推進委員 会の取組 としての 妥当性	A	A	地域まちづくり推 進委員会の取り組 みを掲載しており、 妥当性は十分に ある。		⑦住民の 満足度	A	A	地域のお店紹介など 掲載して、住民が利 用しやすい広報誌を 心がけて、満足度向 上に努力している。	
	④各種団 体との 連携	A	A	他の団体（地区内 小中高校他）との 連携も行っている。	事業継続の必要性				有	
良かった点・ 改善点等		<良かった点や改善した点等> ・ 広報誌の各自治会開催前の発行配布に努め、事業参加人数増加に努めた。 ・ カレンダー掲載の風景写真募集に努め、昨年より応募数が増えた。 ・ 掲示板利用状況確認に現場訪問し、状況に応じ有効活用依頼文書を発送した。								
地域協議会からの 意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月）>							対応	未 ・ 済
		<意見への対応>								
地域協議会からの 意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月 ・ ）>							対応	未 ・ 済
		<意見への対応>								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『ⓐ』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『ⓑ』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

〔8〕その他の事業

ウ

事業名	カレンダーを作ろう事業	実施年数	7年目												
事業期間	開始：平成30年度	終了：													
地域魅力発信プランとの関連	各魅力発信プランに沿った事業を広く知っていただくということで、とても関連がある。														
目的 (期待される効果)	「残したい赤江の風景」をテーマに、カレンダーに地域の写真を掲載して、地域の残したい風景を住民に再発見・再認識してもらう。														
事業内容・手段	・今年度も昨年同様「残したい赤江の風景」を写真テーマに“みんなが残したい赤江の宝もの”と題し、景色だけにとらわれず人・生活の営み・行事などの写真を広く募集した。 ・頂いた作品は審査員4名（写真家2名、宮崎南高校・鵬翔高校写真部顧問の先生）を招き、10月26日（土）に審査会を開催。 応募総数106点の中から9点を選び掲載した。 ・A2版のカレンダー（12月発行 1,000部） 各自治会、学校、赤江地域センター、赤江地交流センター、赤江東地区交流センター、城ヶ崎郵便局、月見ヶ丘郵便局、病院などに配布した。 ・各自治会にカレンダーの事前予約を設けている。														
事業費	232,932円														
対象者	一般地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>応募者</td><td>38人</td><td>43人</td></tr><tr><td>スタッフ (審査員含む)</td><td>9人</td><td>9人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>47人</td><td>52人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	令和5年度	応募者	38人	43人	スタッフ (審査員含む)	9人	9人	合 計	47人	52人
年 度	令和6年度	令和5年度													
応募者	38人	43人													
スタッフ (審査員含む)	9人	9人													
合 計	47人	52人													
住民の声 (アンケートの結果等)	・アンケートは実施していない。 ・毎年カレンダーが完成するのを楽しみにしている方も出てきている。 ・自治会の事前予約の数も増えつつある。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	① 地域ニーズの把握	A	A	昨年同様、カレンダーの配布希望数について、自治会回覧板等を通じて、広く募集した。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	広報誌、ポスター、チラシ、回覧板で周知徹底した。
	②住民の参加	A	A	赤江地域だけでなく広く写真を募集し、地域住民に参加していただいた。			⑥課題解決への作用	A	A	作品の応募数が昨年より増加(96→106)高校写真部に呼び掛け、多数応募してもらえた。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域をテーマにした題材な為、取り組みとして妥当である。			⑦住民の満足度	A	A	カレンダーの配布を希望する住民が年々増加していることから、満足度は高い。
	④各種団体との連携	A	A	カレンダーの配布先として、自治会、公民館、学校、病院、郵便局と連携。		事業継続の必要性				有
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ 審査員として新たに鵬翔高校写真部顧問先生にお願いし、それに伴い写真部生徒の作品応募も増えた。写真応募期限間近(秋)の作品が多く、今後、四季折々の写真応募となるよう工夫と周知徹底を図る。								
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月）＞ ＜意見への対応＞							対応	未・済
		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞							対応	未・済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

〔8〕その他の事業

エ

事業名	地域掲示板設置事業	実施年数	7年目
事業期間	開始：平成23年度	終了：	
地域魅力発信プランとの関連	各魅力発信プランに沿った事業を広く知っていただくということで、とても関連がある。		
目的 (期待される効果)	赤江地域まちづくり推進委員会の事業内容や活動、自治会や地域団体の行事などを地域全体（自治会未加入者など）に広報するため掲示板を設置し、広報活動を活性化させる。また、新規設置自治会を募る。		
事業内容・手段	・新規掲示板設置を希望する自治会へ案内募集文書発送したが、掲示板設置希望自治会はなかった。 ・既存の掲示板設置自治会へ「掲示板使用届」の提出を依頼し、全て回収した。 ・掲示板設置先全24先へ活用状況確認作業実施。掲示板の有効活用お願い文書を発送した。		
事業費	13,434円		
対象者	赤江地区自治会長		
参加者数 (内訳)			
住民の声 (アンケートの結果等)	・アンケートは実施していない。		

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	① 地域ニーズの把握	A	A	掲示板未設置自治会へ募集案内文書を発送するも、今年度設置希望自治会は無し。	広報	⑤事業の周知	A	A	広報誌や各自治会長へ文書を送るなどして周知した。
	① 住民の参加	A	A	掲示板設置希望自治会長へ募集案内文書を発送した。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	自治会に掲示板を設置することができ、今後は掲示板を通して本委員会の活動を周知できる。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	掲示板は委員会の広報や各自治会の掲示板として活用でき、妥当な取り組みである。		⑦住民の満足度	A	A	掲示板の活用状況にも温度差があり、有効活用の依頼文書を発送した。
	④各種団体との連携	A	A	各自治会が掲示板を利用でき、要望があれば新たに連携して設置することができる。	事業継続の必要性				有
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ 掲示板設置自治会は全部で24基となった。定期的に掲示板の使用状況を確認しているが、有効活用されていない自治会もある。地域住民への広報掲示板として、地域魅力発信プランの周知を図り、地区まちづくり推進の役割を果たしていく。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月 ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済
		＜地域協議会からの意見（令和 年 月 ・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

〔8〕その他の事業

オ

事業名	熱気球から地域を眺めよう事業	実施年数	4年目																				
事業期間	開始：令和3年度	終了：年度																					
地域魅力発信プランとの関連	赤江地域にある3小学校の5・6年生を対象に小学校での思い出づくりを手助けする事業で、各魅力発信プランに沿った事業を広く知ってもらおううえからも関連がある。																						
目的 (期待される効果)	赤江地域の3小学校の5・6年生を対象に、自分が通う小学校のグラウンドで熱気球に搭乗体験してもらい、感動と思い出づくりを後押しする。また、防災教育の意識向上の点から災害に使用する炊き出しステーションを使つての「ふるまい」や防災クイズ等を実施する。																						
事業内容・手段	実施日時：①11/17(日) 恒久小学校 55名参加 ②12/7(土) 赤江小学校 20名参加 ③12/21(土) 宮崎南小学校 42名参加 内容：3小学校とも熱気球の係留飛行が実施できた。朝6時の集合にもかかわらず多くの児童の参加があった。非日常の体験で楽しそうな歓声が起きていた。また、「防災クイズ」や災害時に使われる炊き出しステーションを使った「焼き芋のふるまい」なども実施した。 協力：宮崎大学気球部 ガスパル九州(株)																						
事業費	498,256円																						
対象者	赤江地域内3小学校5・6年生																						
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R6年度</th><th>R5年度</th><th>R4年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童・教職員・保護者</td><td>117人</td><td>160人</td><td>158人</td></tr> <tr> <td>学生気球部スタッフ</td><td>21人</td><td>40人</td><td>17人</td></tr> <tr> <td>スタッフ</td><td>28人</td><td>24人</td><td>30人</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>166人</td><td>224人</td><td>205人</td></tr> </tbody> </table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ				R6年度	R5年度	R4年度	児童・教職員・保護者	117人	160人	158人	学生気球部スタッフ	21人	40人	17人	スタッフ	28人	24人	30人	合計	166人	224人	205人
	R6年度	R5年度	R4年度																				
児童・教職員・保護者	117人	160人	158人																				
学生気球部スタッフ	21人	40人	17人																				
スタッフ	28人	24人	30人																				
合計	166人	224人	205人																				
住民の声 (アンケートの結果等)	・めっちゃめっちゃ楽しかったです。もう少しだけ高く長く飛びたかった。来年も絶対参加します。 ・高くて少しこわかったけど楽しかったです。また来たいです。 ・上まで行って、けしきが良くて、また乗りたいです。 ・気球が高くてびっくりしました。ゆれるのが楽しかった。イオンが見えました。また、乗りたくなりました。高校も見えた。 ・火のはくりょく(音、大きさ)がすごかったです。災害の時家にあるガスの方がいいと思いました。 ・防災に関することがまなべてよかった。 ・ききゅうにのるめったにない体験や防災クイズがあつて楽しかったです。 ※学校側には非常に好印象を持って頂き、意義のある事業であった。																						

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	① 地域ニーズの把握	A	A	3小学校の子供達からの応募があり反響があった。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	3小学校にチラシを配布。学校側が申し込みを集約。広報誌で実施状況等報告した。
	② 住民の参加	A	A	多くの小学校5・6年生に参加してもらうことが出来た。			⑥課題解決への作用	A	B	参加者を更に増やすために今年度から、5年生も参加対象とした。
効果的・効率的な取り組み	③ 地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	各学校のグラウンドで実施した。児童はもとより学校、保護者から大変好評だった。			⑦住民の満足度	A	A	参加した児童、保護者、学校関係者からは経験のできない行事で高い評価をもらった。
	④ 各種団体との連携	A	A	宮崎大学気球部・ガスパル九州(株)と連携。 学校、PTA		事業継続の必要性				有
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・参加した児童、学校関係者、保護者には熱気球体験搭乗、防災に関するクイズ等大変好評だった。 ・参加対象者を5・6年生に広げた。今回参加した5年生の経験談等の口コミによる、来年の参加者増に期待する。 ・参加者を募る上からも、PTAと連携を図り幅広く告知し、さらに多くの児童に参加を促していきたい。								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>							対応	未・済
		<意見への対応>								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>							対応	未・済
		<意見への対応>								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『⓪』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『ⓧ』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

〔8〕その他の事業

カ

事業名	まつり実行委員会事業	実施年数	1年目						
事業期間	開始：令和4年度	終了：年度							
地域魅力発信プランとの関連	各魅力発信プランに沿った事業を地域内の諸団体で協議するという事で、とても関連がある。								
目的 (期待される効果)	赤江地域の各種団体や住民の方々と課題を共有し、全員で取り組む事業開催を目指す。								
事業内容・手段	赤江地域内の諸課題に対して、まつり開催に向けた話し合いをすることで地域内の諸団体間の連携を強化するために実施した。 ＜協議参加団体：12団体＞※2025年3月末日現在 赤江地域まちづくり推進委員会、赤江地区社会福祉協議会、赤江東地区社会福祉協議会、赤江地区青少年育成協議会、赤江東地区青少年育成協議会、赤江地区地域包括支援センター、赤江東地区交流センター、赤江地区交流センター 月見ヶ丘第6区自治会、緑松北自治会、下鶴自治会、個人グループ1団体 会議開催回数：10回 ＜決定事項＞ まつり開催日：令和7年11月30日(日) まつり開催場所：赤江小学校								
事業費	29,298円								
対象者	赤江地域住民または、団体								
参加者数 (内訳)	<table><tr><td></td><td>令和6年度</td></tr><tr><td>延べ参加人数</td><td>84人</td></tr><tr><td>会議回数</td><td>10回</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ				令和6年度	延べ参加人数	84人	会議回数	10回
	令和6年度								
延べ参加人数	84人								
会議回数	10回								
住民の声 (アンケートの結果等)	アンケートは行っていない。								

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	① 地域ニーズの把握	A	—	地域活動を行っている団体に所属する方々の活動内容や課題を共有化できた。		広報	⑤事業の周知	A	—	広報誌でまつりを企画していることを伝えた。	
	②住民の参加	A	—	自治会長や、地域住民も参加している。		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	—	まちづくりに係る団体間で意見交換を行うことで、諸課題の解決につながる。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	—	赤江地域内の様々な団体と意見交換をすることは有意義である。			⑦住民の満足度	B	—	まつりの開催には至っておらず満足度は計れていない。	
	④各種団体との連携	A	—	地域内12団体間の連携が進んだ。		事業継続の必要性				有	
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ 赤江地域のまちづくりに係わっている諸団体間で定期的な会議を行うことで、それぞれの団体の活動内容や係わっている方々の人となりがよくわかり、今迄以上に連携が取れるようになった。									
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和4年5月）＞ ＜意見への対応＞							対応	未・済	
		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞							対応	未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

〔8〕その他の事業

キ

事業名	まちづくり活動支援事業	実施年数	15年目
事業期間	開始：平成22年度	終了：	年度
地域魅力発信プランとの関連	各魅力発信プランに沿った事業を円滑に行うための支援なので全てに関連がある。		
目的 (期待される効果)	まちづくり事業を円滑に行うための費用を負担する。		
事業内容・手段	① 事務局用パソコン、プリンター、コピー機、防犯パトロール用の車両のリース費用。 ② 文具等の購入や、郵便及び切手、封筒購入費 ③ AEDのリース費用。 ④ 各種部会の支援等費用。		
事業費	1,345,634円		
対象者	赤江地域まちづくり推進委員会委員		
参加者数 (内訳)			
住民の声 (アンケートの結果等)	・アンケートは実施していない		

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	① 地域ニーズの把握	A	A	まち推メンバーからの部会ヒアリングで、住民ニーズ等の把握が随時できた。		広報	⑤ 事業の周知	A	A	広報誌に事業計画・報告を掲載	
	② 住民の参加	—	—			事業の効果	⑥ 課題解決への作用	—	—		
効果的・効率的な取り組み	③ 地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	事務局で使用する機材のリース代の他に各部会の支援活動費として妥当である			⑦ 住民の満足度	—	—		
	④ 各種団体との連携	—	—			事業継続の必要性				有	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・資料作成等事前準備段取りをしっかりと行い、各部会がスムーズに進行できた。 ・老朽化によるプロジェクターの買い替えで、地域の各団体へ貸出しができ、地域活動に寄与できた。									
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未 ・ 済	
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『ⓧ』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	青パト活動支援及び防犯活動事業
-----	-----------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	180,000	
2	合計 (A)	180,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	内 訳
1	需用費	106,608	食糧費 (会議用菓子・茶代) 13,608
			燃料費 (パトロール車両分) 93,000
2	役務費	31,760	通信運搬費 (郵送代) 15,260
			保険料 (ボランティア保険) 16,500
3	合計 (B)	138,368	

収支差額 (A) - (B)	41,632
----------------	--------

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	安全に関する訓練及び講座事業
-----	----------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	110,000	
2	合計 (A)	110,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	内 訳
1	需用費	18,421	消耗品費 (文具) 4,131
			食糧費 (会議用茶・菓子代) 8,890
			食糧費 (スタッフ弁当) 5,400
2	役務費	19,750	手数料 (クリーニング代) 16,456
			通信運搬費 (郵送代) 3,294
3	合計 (B)	38,171	

収支差額 (A) - (B)	71,829
----------------	--------

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	災害救助資機材等設置事業
-----	--------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	220,000	
2	合計 (A)	220,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	内 訳
1	需用費	182,605	消耗品費 (小中学校備蓄消耗品) 40,052
			消耗品費 (事務用品他) 6,955
			印刷製本費 85,800
			(資機材・備蓄品チラシ印刷代)
			燃料費 (ガスボンベ充填代) 10,670
			賄材料費 (炊出し訓練食材) 33,231
			食糧費 (スタッフ弁当代) 3,457
			食糧費 (会議用茶代) 2,440
2	役務費	12,744	手数料 (代引き手数料) 250
			手数料 (クリーニング代) 9,864
			通信運搬費 (郵送代) 2,630
3	原材料費	15,563	木材、塗料他 15,563
			(赤江東中のかまどベンチ補修)
4	合計 (B)	210,912	

収支差額 (A) - (B)	9,088
----------------	-------

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	わくわく防災体験事業
-----	------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	480,000	
2	合計 (A)	480,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	内 訳
1	需用費	79,593	賄材料費 13,401
			印刷製本費 61,600
			食糧費 (会議用お菓子代) 3,312
			消耗品費 (宛名用紙) 1,280
2	役務費	33,724	通信運搬費 (資料、チラシ送付) 33,724
3	合計 (B)	113,317	

収支差額 (A) - (B)	366,683
----------------	---------

(様式第6号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	つくってあそぼ事業
-----	-----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	150,000	
2	合計 (A)	150,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	内訳
1	需用費	24,632	食糧費 (会議用お茶、菓子代) 7,612
			食糧費 (事業用お菓子代/3箇所分) 10,726
			消耗品費 (おもちゃ、文具等/3箇所分) 6,294
2	役務費	9,948	通信運搬費 (はがき代) 4,250
			クリーニング代 (スタッフベスト) 5,698
3	合計 (B)	34,580	

収支差額 (A) - (B)	115,420
----------------	---------

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	ソーラーカーを作ろう!事業
-----	---------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	117,000	
2	負担金	13,000	参加料 26 名分
3	合計 (A)	130,000	

(2) 支出の部

(単位:円)

番号	科目	金額	
1	報償費・謝金	24,000	講師代(6,000円×4名) 24,000
2	需用費	11,647	消耗品費(ペットボトル) 2,437
			食糧費(会議用お茶・菓子代) 4,310
			食糧費(スタッフ弁当代7名分) 4,900
3	役務費	11,000	通信運搬費(切手代) 11,000
4	合計 (B)	46,647	

収支差額 (A) - (B)	83,353
----------------	--------

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	あかえ花いっぱい事業
-----	------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	111,000	
2	負担金	14,000	参加料 28 名分
3	合計 (A)	125,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	
1	報償費	6,000	講師謝金 6,000
2	需用費	63,120	食糧費 (会議用お茶・お菓子代) 11,486
			食糧費 (スタッフ弁当7名分) 4,794
			消耗品費 (鉢、苗) 46,840
3	役務費	12,388	手数料 (クリーニング代) 5,544
			通信運搬費 (切手代) 6,844
4	合計 (B)	81,508	

収支差額 (A) - (B)	43,492
----------------	--------

(様式第6号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	あかえ寺子屋事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	230,000	
2	合計 (A)	230,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	内 訳
1	報償費	51,000	まち歩き講師謝金(1名) 6,000
			演奏者謝金(2名) 24,000
			茶道講師謝金(1名) 6,000
			茶道補助員謝金(5名) 15,000
2	旅費・費用弁償	3,500	茶道補助員交通費(5名) 3,500
3	需用費	94,618	食糧費(音楽と茶の湯・菓子代) 10,908
			食糧費(まち歩き菓子代) 10,200
			食糧費(スタッフ弁当代) 17,275
			食糧費(会議用お茶代) 5,778
			印刷製本費(まち歩き、音楽と茶の湯) 36,850
			消耗品費(茶道用消耗品等) 13,607
4	役務費	12,505	通信運搬費(切手代) 5,500
			手数料(クリーニング代) 6,237
			手数料(代引き手数料) 768
5	使用料及び賃借料	13,000	会場使用料 8,000
			茶道具賃借料 5,000
6	公課費	2,400	印紙代(道路使用許可申請書) 2,400
7	合計 (B)	177,023	

収支差額 (A) - (B)	52,977
----------------	--------

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	赤江の歴史案内事業
-----	-----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	300,000	
2	合計 (A)	300,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	内訳
1	委託費	100,000	番所橋デザイン委託費 100,000
2	備品購入費	162,140	番所橋案内板 162,140
3	合計 (B)	262,140	

収支差額 (A) - (B)	37,860
----------------	--------

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	花でつなごう西田橋事業
-----	-------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	250,000	
2	合計 (A)	250,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	内 訳
1	需用費	127,980	消耗品費 (花壇用土、道具代等) 91,922
			食糧費 (会議用お茶、菓子) 30,948
			印刷製本費 (チラシ印刷代) 5,110
2	役務費	22,909	通信運搬費 (郵送代) 15,870
			手数料 (クリーニング代) 6,573
			手数料 (代引き手数料) 466
3	合計 (B)	150,889	

収支差額 (A) - (B)	99,111
----------------	--------

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	広報誌「人・夢・あかえ」の発行事業
-----	-------------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	390,000	
2	繰越金	300,000	
3	合計 (A)	690,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	内 訳
1	需用費	505,404	印刷製本費 (広報誌42・43・44号) 500,150 食糧費 (会議用お茶・お菓子代) 5,254
2	役務費	86,170	通信運搬費 (広報誌42・43・44号送料) 79,550 通信運搬費 (切手代) 6,620
3	合計 (B)	591,574	

収支差額 (A) - (B)	98,426
----------------	--------

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	カレンダーを作ろう事業
-----	-------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	270,000	
2	合計 (A)	270,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	内 訳
1	報償費、謝金	12,000	審査員謝金 (2名分) 12,000
2	需用費	182,902	印刷製本費 (写真募集ポスター) 44,000 印刷製本費 (カレンダー1,000枚) 88,000 審査員お礼の品代 (2名分) 7,000 写真入賞者賞品代 32,000 食糧費 (会議用お茶・菓子代) 5,130 食糧費 (スタッフ弁当5名分) 3,240 消耗品 (プリント用紙代等) 3,532
3	役務費	38,030	通信運搬費 37,550 (自治会文書・カレンダー等郵送代) 手数料 (QUOカード発行手数料) 480
4	合計 (B)	232,932	

収支差額 (A) - (B)	37,068
----------------	--------

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	地域掲示板設置事業
-----	-----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	20,000	
2	合計 (A)	20,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	内 訳
1	需用費	4,934	食糧費 (会議用お茶代) 4,934
2	役務費	8,500	通信運搬費 (切手代) 8,500
3	合計 (B)	13,434	

収支差額 (A) - (B)	6,566
----------------	-------

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	熱気球から地域を眺めよう事業
-----	----------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	530,000	
2	合計 (A)	530,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	内 訳
1	報償費	72,000	パイロット謝礼 (3名/3校分) 18,000 地上員謝礼 (18名/3校分) 54,000
2	需用費	118,386	印刷製本費 (チラシ印刷代・3校分) 9,910 気球燃料費 (3校分) 84,000 食料費 (スタッフ用弁当代・3校分) 24,476
3	役務費	94,870	通信運搬費 (気球運搬代・3校分) 75,000 手数料 (代引き手数料など) 1,870 保険料 (3校分) 18,000
4	使用料及び賃借料	213,000	気球機材使用費 (3校分) 180,000 焼芋レンタル機代 (1校分) 33,000
5	合計 (B)	498,256	

収支差額 (A) - (B)	31,744
----------------	--------

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	まつり実行委員会事業
-----	------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	40,000	
2	合計 (A)	40,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	内 訳
1	需用費	22,478	食糧費 (会議用お茶、菓子) 22,478
2	役務費	6,820	通信運搬費 (資料郵送代) 6,820
3	合計 (B)	29,298	

収支差額 (A) - (B)	10,702
----------------	--------

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

赤江地域自治区

赤江地域まちづくり推進委員会

事業名	まちづくり活動支援事業
-----	-------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	966,444	
2	繰越金	413,556	
3	合計 (A)	1,380,000	

(2) 支出の部

(単位：円)

番号	科目	金額	内訳
2	需用費	402,721	燃料費 45,000
			消耗品費 184,016 (コピー用紙/文具他)
			消耗品費 (コピー代) 151,705
			印刷製本費 (ボランティア手帳) 22,000
3	役務費	222,572	通信運搬費 (郵送代) 31,080
			通信運搬費 (インターネット) 36,960
			通信運搬費 (電話) 66,449
			保険料 84,463
			手数料 3,620
1	使用料及び賃借料	667,043	コピー機・PC・リース代 306,240
			車両リース 279,070
			AEDリース代 79,200
			案内看板占有料 2,533
4	備品購入費	53,298	器具備品 (プロジェクター) 53,298
5	合計 (B)	1,345,634	

収支差額 (A) - (B)	34,366
----------------	--------

令和 7 年 3 月 31 日現在

積 立 金 管 理 状 況 報 告 書

赤江地域自治区
赤江地域まちづくり推進委員会

積立金名称	掲示板修繕費等積立基金
-------	-------------

積立金の収支 (単位:円)

番号	項 目	金 額	備 考
1	積立金	799,009	
2	利息	420	
3	取崩額	799,429	
4	合計 (A)	0	

※ 3/18 通帳解約し、3/21 解約金を納付済

(様式第9号)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書

令和7年5月19日

宮崎市長 清山 知憲 殿

主たる事務所の所在地 宮崎市大字田吉5730-3
名 称 赤江地域まちづくり推進委員会
代表者の氏名 会長 佐藤 正信
電話番号 (0985) 51-5122

令和5年5月30日付で交付決定のありました地域コミュニティ活動交付金については、
決算において713,556円の残金があり、繰越金として次年度の会計へ繰り越しますの
で届け出ます。

繰越金内訳

基礎交付金 1,144,212円
特例交付金 0円

添付書類

令和6年度 収支決算書写し

令和7年3月14日

令和6年度 赤江地域まちづくり推進委員会への意見書

赤江地域自治区地域協議会
会長 立本 威

令和6年度の赤江地域自治区の地域まちづくり推進委員会事業報告及び決算書【見込み】について、承認いたします。

また、事業実施報告、収支決算について本協議会の承認が必要になることがありますので、ご留意いただきますようお願いいたします。

記

1. 総括

特にありません。

2. 事業の推進体制

特にありません。

3. 各事業への意見（意見のある事業のみ記載）

事業名	意見
	特にありません。

4 その他